

高温・干ばつ対策特報 2026

公開日：令和8年7月
JA 中野市園芸課

果樹関係

① かん水

- ✧ 目的：園地内の湿潤状態の維持・地温上昇抑制・土壌水分の激変緩和・日焼け防止 他
- ✧ かん水設備がある場合：晴天日数が概ね 5～6 日続いたらかん水を行う ＊1 日当りの散水量 10 mm程度（目安）
- ✧ かん水設備のない場合：タンク等で水を運んで根元に集中的にかん水する ＊1 樹当たり 100～200 ㎖位（目安）
- ✧ おすすめ実施時間帯：夕方が望ましい ＊ジクジク吸収させるため
- ✧ 土壌水分激変緩和のため、特に梅雨明け後 5 日以内に降雨がない場合は、早急にかん水を行う
- ✧ 打ち水効果を狙った日中のかん水：地面に撒いた水の蒸発効果により地表面の温度を下げ、そこから熱放射を和らげ園内の気温の低下を促す。尚、打ち水効果を最大限に活かすためには、緑陰部分（草部分等）への散水が最も効果的
- ✧ ぶどう：満開 40 日後（肥大期）まで積極的にかん水を実施する ＊肥大促進のため他



樹元の敷きワラ（厚さ5cm以上）

② 保水

- ✧ 目的：蒸散防止・地温上昇抑制 他
- ✧ 盛夏期前に敷きワラ・マルチ等を行う ＊早めに実施しておくとも効果高い
- ✧ 敷きワラ方法：幹まわり 2m 中心に実施（厚さ 5 cm程度・根量が多い幹まわりの保水は効果高い）
- ✧ 丈を長く残す草刈り方法：盛夏期に園内の草を通常より高めに刈っておくことで、地表面が強日照にさらされることなく、高温抑制になる（草があることで朝露等残り保水効果もあがる）



りんご徒長枝利用の日除け

③ 日焼け防止

- ✧ 日除け枝等の設置
- ✧ 立ち木：主枝・亜主枝等の背面部分は特に日焼け果が発生し易いため、徒長枝は全て切らずに間引く程度か、30 cm程度残して切除して日除けする
- ✧ ぶどう：房まわりの副梢葉を 1 枚程度残して日除けする
- ✧ 直射日光の当たる太枝の背面等に白塗剤（商品名：フジホホワイトや農業用白ペンキ等）を塗布する
＊立ち木品目
- ✧ りんごで日焼けの発生が心配される園の南～西側に寒冷紗資材を設置する

④ 新梢管理

- ✧ 梅雨明け以降は、過度な枝管理は控え、適度な木陰を作る
- ✧ 日焼けが発生しやすい南西方向の樹冠外部の切除量を減らし、日焼けが発生しないように配慮する
- ✧ ぶどう：縮果症防止のため、水まわり前（7月中下旬）は過度な枝管理（強摘心等）は控え、水まわり後（8月上旬以降）に枝管理を行う



もも主枝背面の白塗剤利用

⑤ 袋掛け・笠かけ

- ✧ ぶどう：35℃程度の高温になりそうな場合は袋掛けを控える。例年、日焼けが発生しやすい場所は早めに笠かけを行う。
- ✧ 日焼け防止や果面保護におすすめ資材
 - りんご：ピンクNKワックス
 - もも：Yピーチ 22号 TPLミニ 12V（2重袋・軸かけ・枝かけの2種あり）
 - ぶどう：シャイン袋（緑）
 - ぶどう：遮光率の高いクラフト傘・タイベック傘
- ✧ もも等では、日焼け防止のため、除袋する2～3日前に袋の下部を破り、外気温に馴らしてから除袋を行う。加えて、気温が低い時間帯（朝方等）になるべく実施しない。



⑥ 収穫管理

- ◆ 果実硬度維持対策：高温・土壌干ばつ時は、土中のカルシウム成分が植物の中に移動しにくい状況となるため、カルシウム剤の葉面散布を行い、果実内のカルシウム濃度高めておくことで収穫時の鮮度保持となる ＊例：りんごカルタス散布等
- ◆ 高温とゲリラ豪雨等で急激に成熟が進むことがあるため、果肉硬度を確認しながら適期収穫を行う
- ◆ できるだけ涼しい時間帯（鮮度の良い時間帯）に収穫を行う
- ◆ 収穫物を長時間高温下におかないようにする
- ◆ 反射資材を設置する場合は、白系資材（商品名：タイベックシート・パールライト等）を使用する
＊シルバー系資材に比べて園地内温度が上がりにくい為



りんご支柱立てや枝つり

⑦ 病害虫防除

- ◆ 定期防除間隔：10～14 日おきに実施する
- ◆ 立ち木：支柱立てや枝つり、新梢管理を行い、薬液が通り易い環境を作る
- ◆ ぶどう：水まわり後の枝管理を徹底し、薬液が通り易い環境を作る
- ◆ 梅雨明け後はシンクイムシ類・ハダニ類が最大の発生時期になるため、一定間隔で薬剤散布進め、場合により特別散布を行う
- ◆ シンクイムシ類：本年は第 1 世代（7 月）の発生多めのため、生育期後半まで断続的に発生する恐れがあるため、被害果実を見つけ次第、園外へ持ち出す ＊二次被害防止のため
- ◆ ハダニ類・スリップス類：^{すみか}住処である下草刈り 2～3 日後に殺虫（ダニ）剤を散布すると効果が上がる
- ◆ 昨年（R5）は酷暑で経過しハダニ類被害が拡大しました。本年も被害拡大が心配されますので、ハダニ類の密度抑制を目的に早めから防除を徹底してください
- ◆ カメムシ類：葉裏の産卵や食害が確認された場合は特別散布等を行ってください

野菜・水稻・花き

共 通

- ◆ 急激な気象変化は、大きなストレスになるので、栽培品目の生育ステージや土壌条件等に応じて、かん水などの適正な管理を行う。
- ◆ 日焼けや着果不良を防止するため、寒冷紗や遮光資材を用いて、できる限り温度低下に努める。
- ◆ アブラムシ類・アザミウマ類・オオタバコガ・ハダニ類発生中。状況にあわせて早めに薬剤散布を実施する。

尚、高温時の薬剤散布は薬害が発生しやすいため注意する。

① 野 菜

- ◆ カルシウム欠乏対策：高温・乾燥が続くとカルシウム欠乏による生理障害（心腐れ、縁腐れ、尻腐れ等）が発生しやすい為夕方等涼しい時間帯にかん水を行い、併せてカルシウム資材（セルキープ 1,000 倍）の葉面散布を行う。
- ◆ きゅうり、なす等の果菜類では不良果は、早期に摘果し、株の負担を少なくして草勢の維持を図る。
- ◆ 病害葉は感染源となるため摘除し園地外に持ち出す。

② 水 稻

◆ 出穂以降は極端な土壌乾燥を避け、土壌水分を保持して根の老化防止と健全な登熟を図る。

◆ 高温により斑点米の原因となるカメムシ類が発生しやすいため適期に防除を行う。

③ トルコギキョウ

◆ 生育適温 25℃ 30℃以上になるハウス内ですが、できるだけ涼しい管理を行う。寒冷紗設置
セルキープ 1,000 倍散布（チップバーン 葉先枯れ防止）

◆ 防除・かん水は涼しい時間帯に行う。

◆ 本年から 6～8 月出荷 鮮度保持剤は、クリザール K20 -C 1,500 倍をご利用ください（老化、
花傷み抑制）。

④ 露地品目（花）

◆ ハダニ類発生初期は、下葉の葉裏から発生するため、ダニ剤は地際から葉裏にたっぷり散布しましょう。

◆ 過乾燥が続くと早期開花の原因となる品目もあるため、適期灌水に努める。敷きワラや、もみ殻等の施用で

乾燥を防ぐことも有効。

*近年は、短時間の大雨（ゲリラ豪雨）に見舞われる事がしばしばありますので、園内の排水対策にも留意下さい。